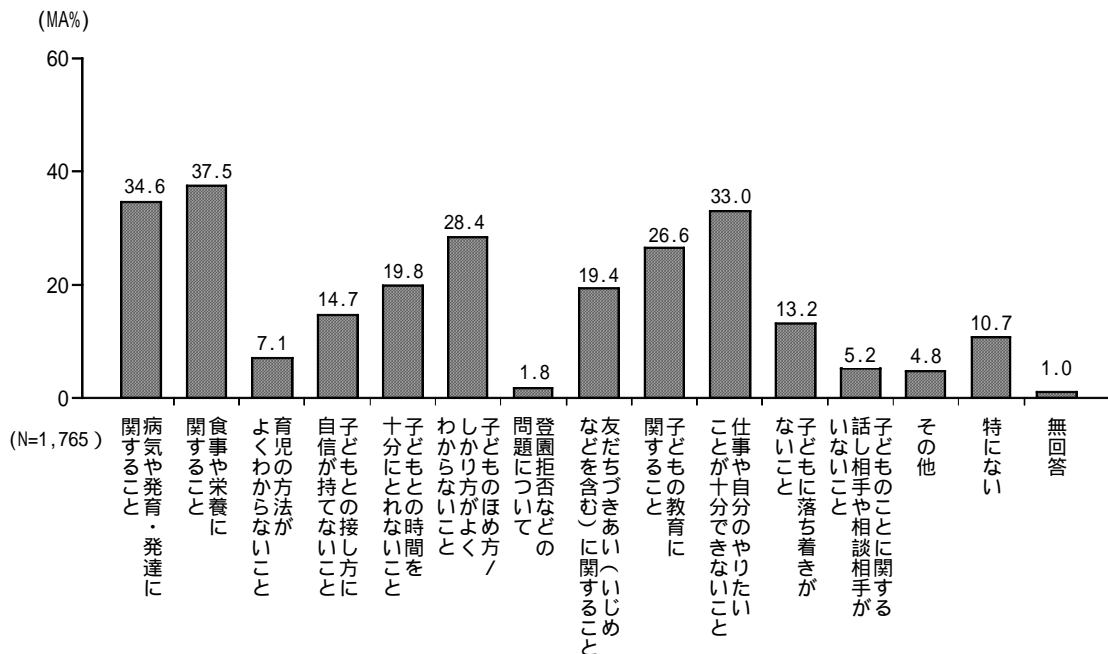
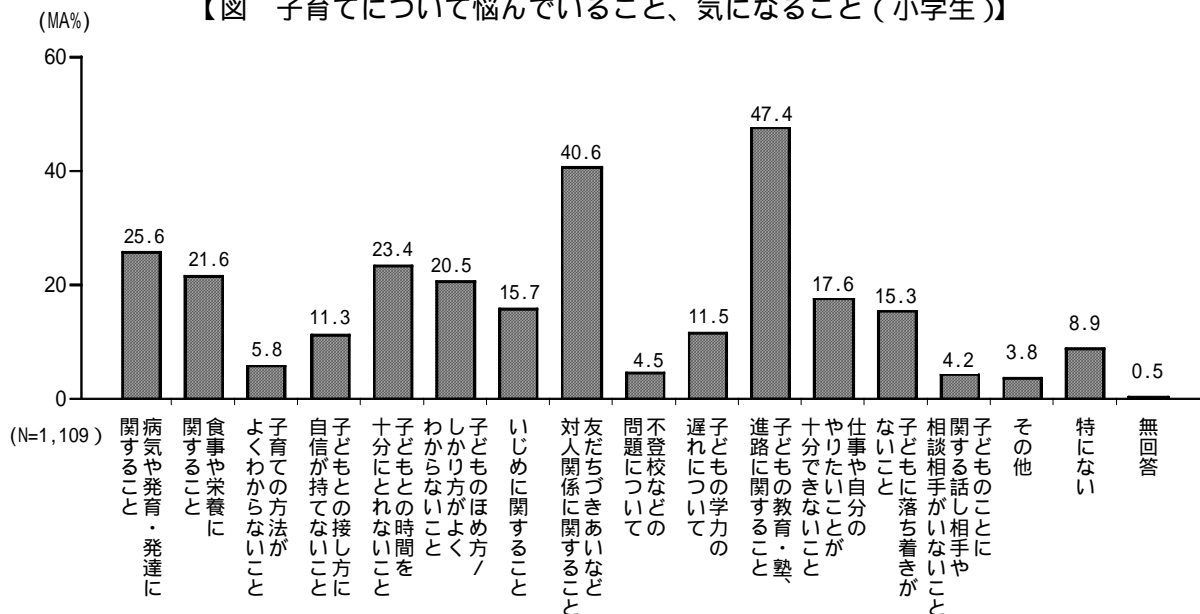


(2) 子育てについての悩み・気になること(問10)

【図 子育てについて悩んでいること、気になること(就学前児童)】

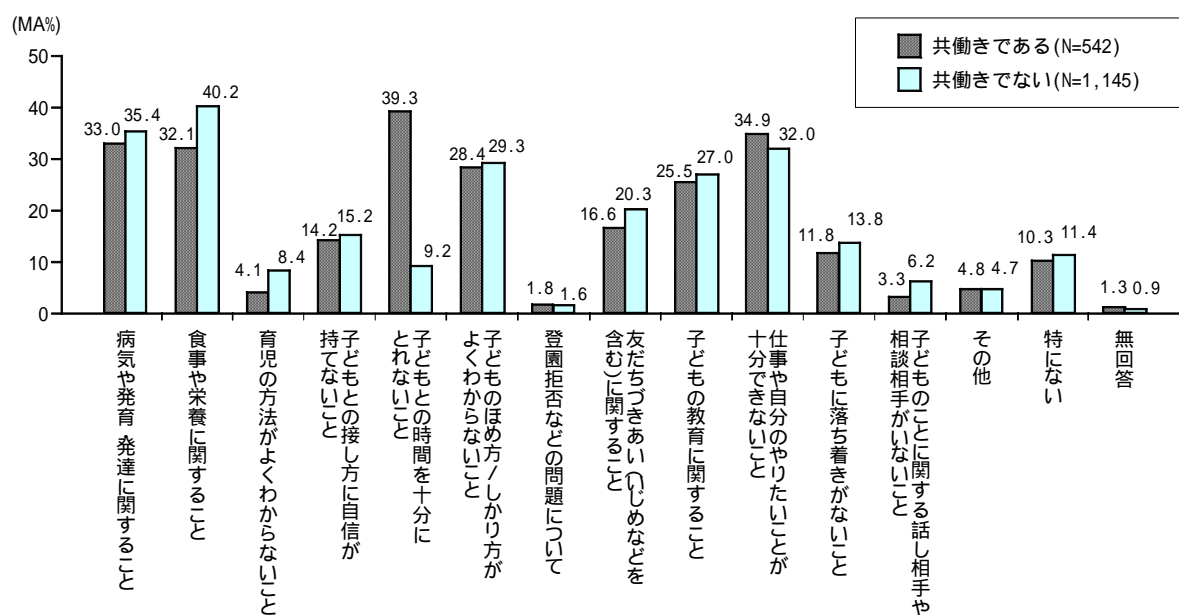


【図 子育てについて悩んでいること、気になること(小学生)】

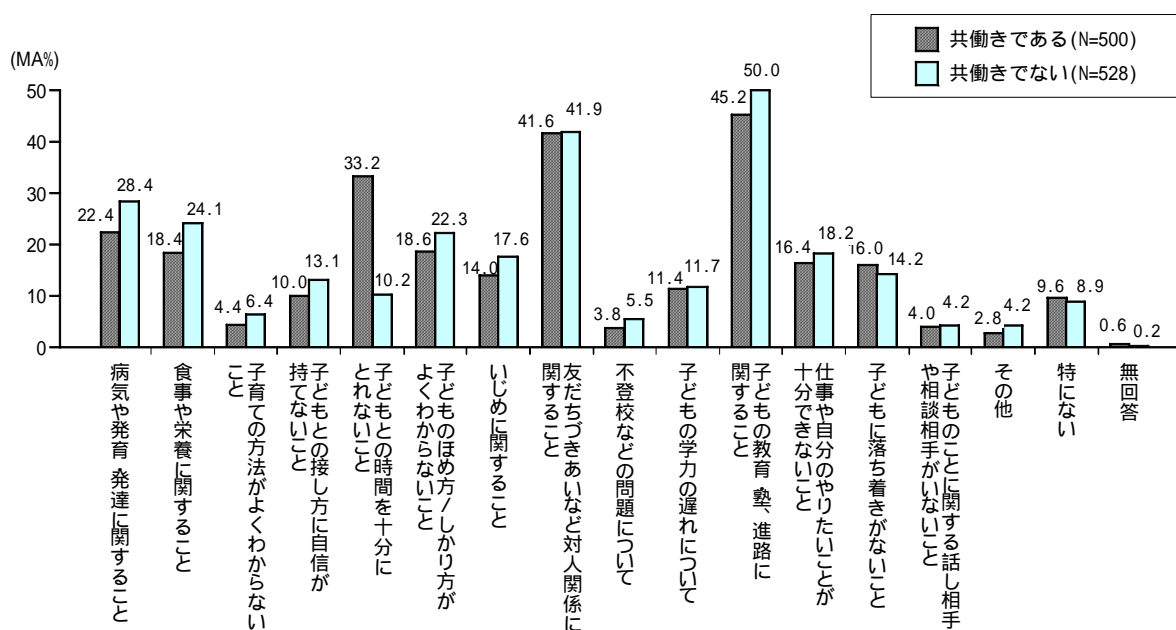


子育てについて悩んでいること、気になることについてみると、就学前児童では「食事や栄養に関すること」が37.5%と最も多く、次いで「病気や発育・発達に関すること」(34.6%)、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」(33.0%)の順となっている。小学生の場合、「子どもの教育・塾、進路に関すること」が47.4%と最も多く、次いで「友だちづきあいなど対人関係に関すること」(40.6%)、「病気や発育・発達に関すること」(25.6%)の順となった。

【図 共働き状況別 子育てについて悩んでいること、気になること（就学前児童）】

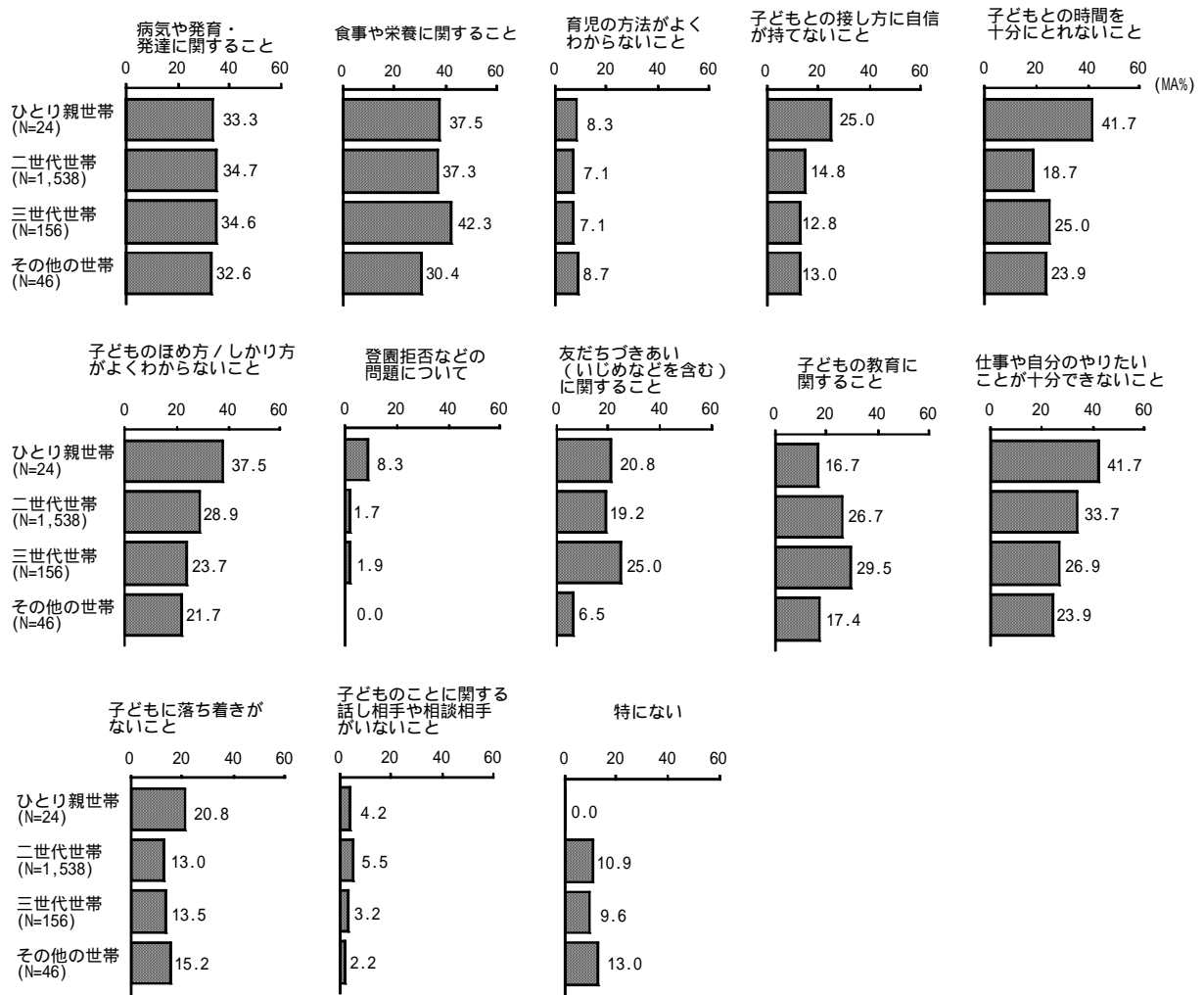


【図 共働き状況別 子育てについて悩んでいること、気になること（小学生）】

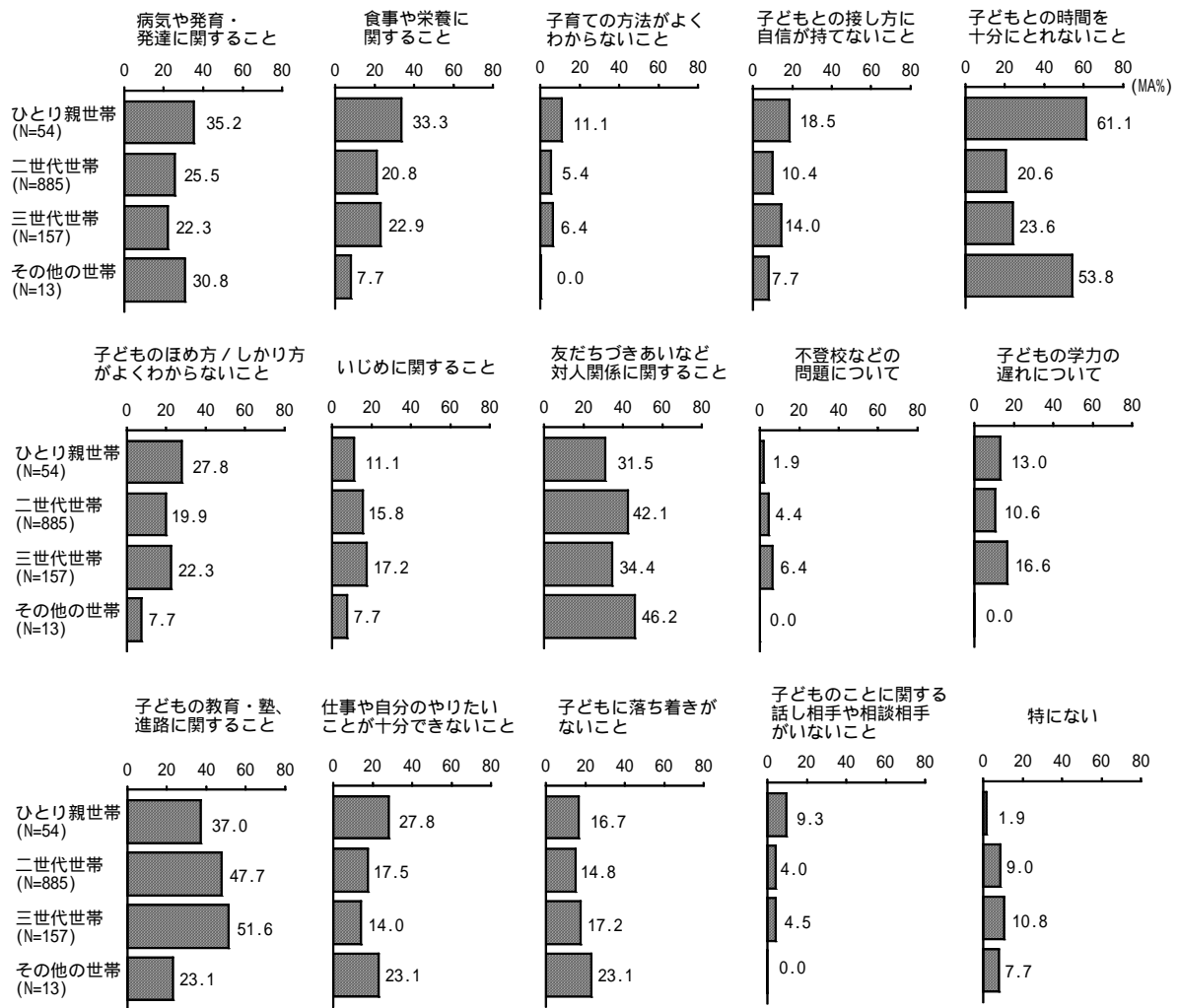


共働きの状況別にみると、就学前児童では共働きの世帯で「子どもとの時間を十分にとれないこと」(39.3%)、共働きでない世帯で「食事や栄養に関すること」(40.2%)が最も高く、「病気や発育・発達に関すること」、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」も共働きの世帯、共働きでない世帯ともに30%以上を占めている。小学生では、共働きの世帯、共働きでない世帯ともに「子どもの教育・塾、進路に関すること」、「友だちづきあいなど対人関係に関すること」が40%~50%台を占め、共働きの世帯では「子どもとの時間を十分にとれないこと」(33.2%)が共働きでない世帯に比べ高くなっている。

【図 世帯構成別 子育てについて悩んでいること、気になること（就学前児童）】



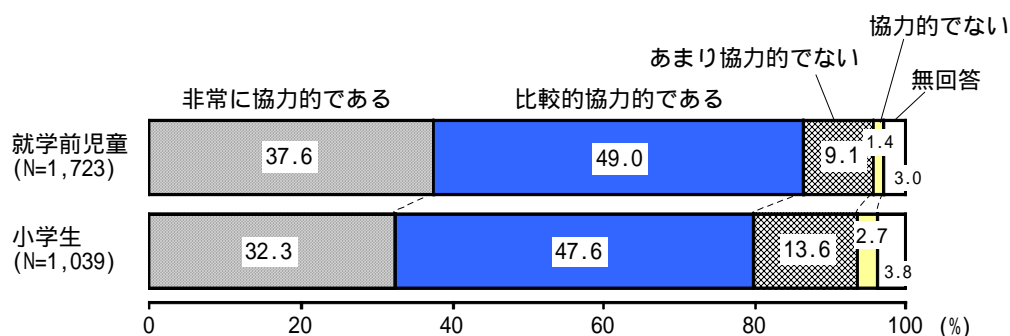
【図 世帯構成別 子育てについて悩んでいること、気になること（小学生）】



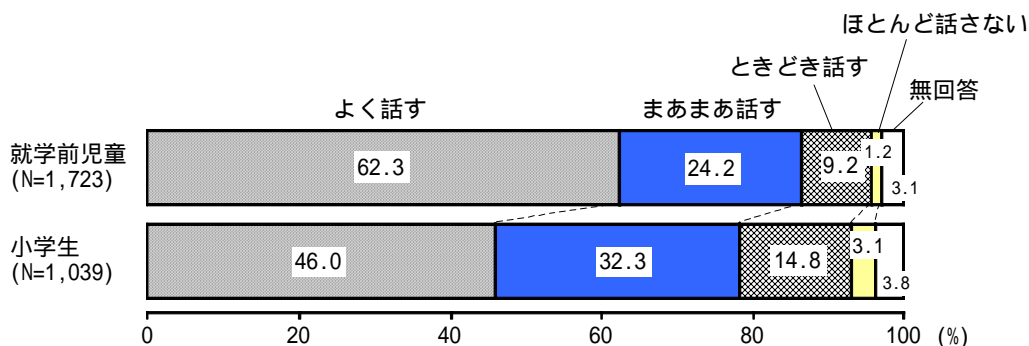
世帯構成別にみると、就学前児童ではひとり親世帯で「子どもとの時間を十分にとれないこと」(41.7%)、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」(41.7%)が他の世帯に比べ高く、三世帯世帯では「食事や栄養に関すること」が42.3%で高くなっている。小学生では、ひとり親世帯で「子どもとの時間を十分にとれないこと」が61.1%で他の世帯に比べ高く、二世帯世帯(47.7%)、三世帯世帯(51.6%)では「子どもの教育・塾、進路に関すること」が高くなっている。

(3) 配偶者の子育てへの関わり方 (問 11)

【図 配偶者の子育てへの関わり】



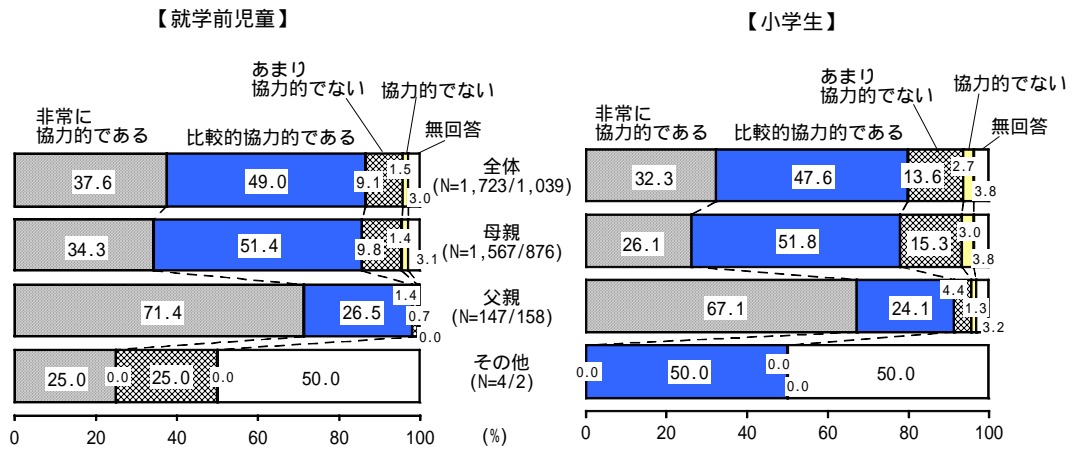
【図 子どものことで配偶者と話すこと】



配偶者の子育てへの関わり方についてみると、就学前児童、小学生ともに「比較的協力的である」が40%台と最も多く、「非常に協力的である」をあわせると就学前児童で86.6%、小学生で79.9%を占める。小学生では「協力的でない」(「あまり協力的でない」「協力的でない」の合計)が就学前児童より5.8ポイント高くなっている。

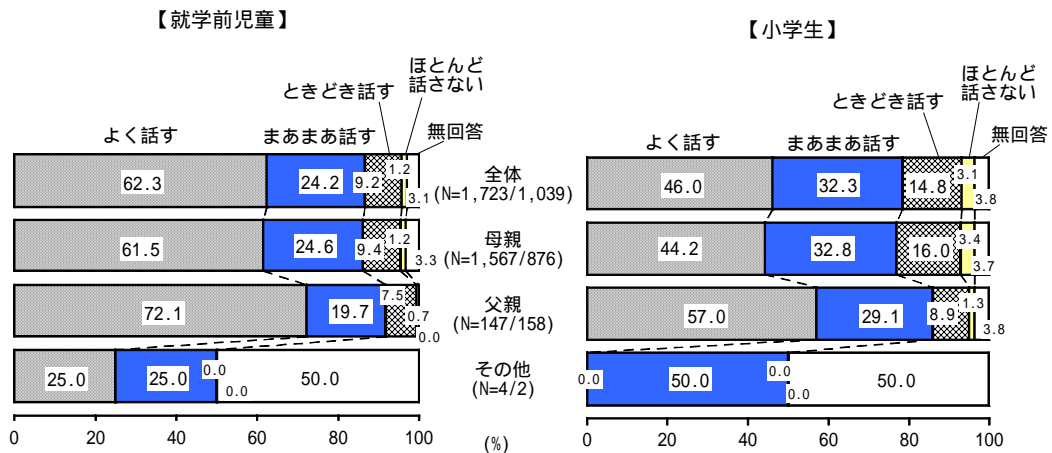
子どものことについて配偶者と話す頻度は、就学前児童、小学生ともに「よく話す」が最も高くなっているが、就学前児童の方が16.3ポイント高くなっている。なお、「ほとんど話さない」は、就学前児童1.2%、小学生3.1%であった。

【図 回答者の属性別 配偶者の子育てへの関わり】



回答者の属性別にみると、就学前児童、小学生ともに配偶者が「協力的である」「非常に協力的である」「比較的協力的である」の合計)との回答が、母親よりも父親の方が高くなっている。

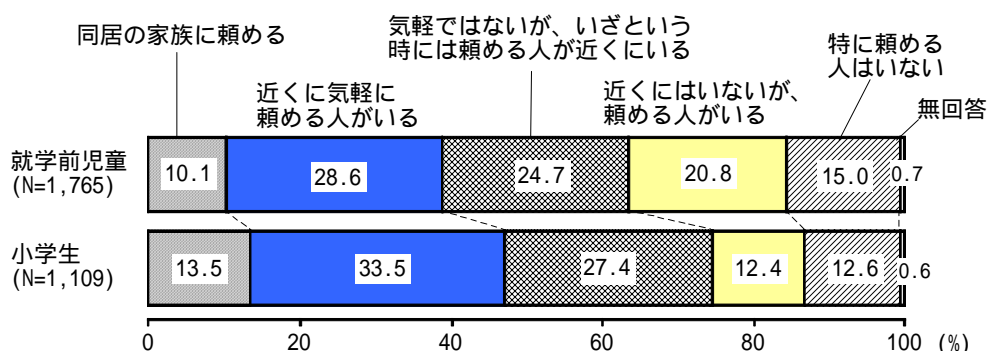
【図 回答者の属性別 子どものことで配偶者と話すこと】



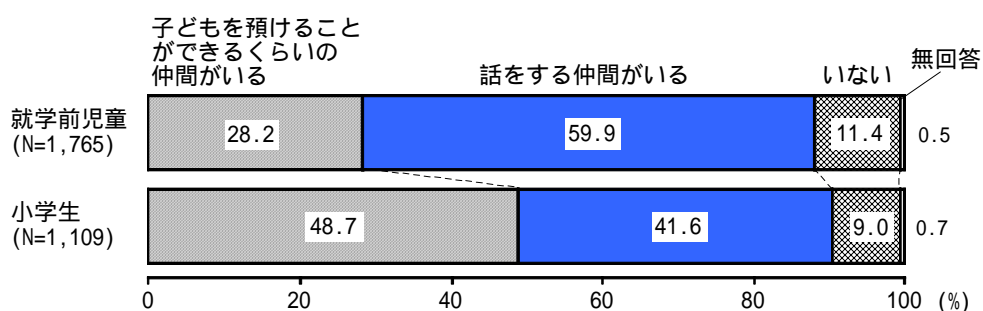
回答者の属性別にみると、就学前児童、小学生ともに配偶者と「話す機会が多い」「よく話す」「まあまあ話す」の合計)との回答が、母親より父親の方が高くなっている。

(4) 周囲の人の子育てへの関わり方(問11)

【図 子どもの世話を頼める親族や友人・知人の有無】



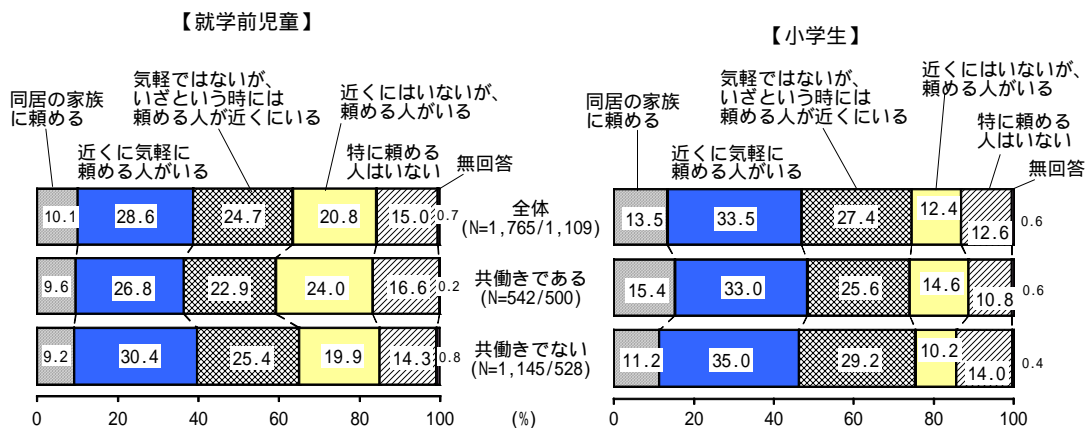
【図 子育て仲間の有無】



子どもの世話を頼める親族や友人・知人などの有無についてみると、就学前児童(28.6%)、小学生(33.5%)ともに「近くに気軽に頼める人がいる」が最も多くなっており、その一方で、「特に頼める人はいない」は就学前児童で15.0%、小学生で12.6%みられた。

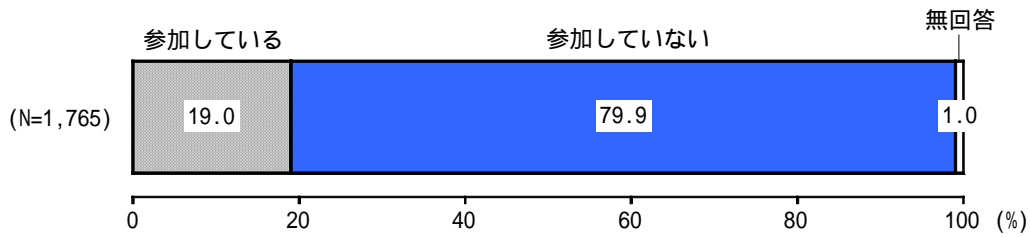
子育て仲間の有無についてみると、「いる」(「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」「話をする仲間がいる」の合計)との回答は、就学前児童で88.1%、小学生で90.3%を占め、「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」については小学生の方が20ポイント以上高くなっている。それに対し、「いない」との回答は、就学前児童で11.4%、小学生で9.0%みられた。

【図 共働き状況別 子どもの世話を頼める親族や友人・知人の有無】

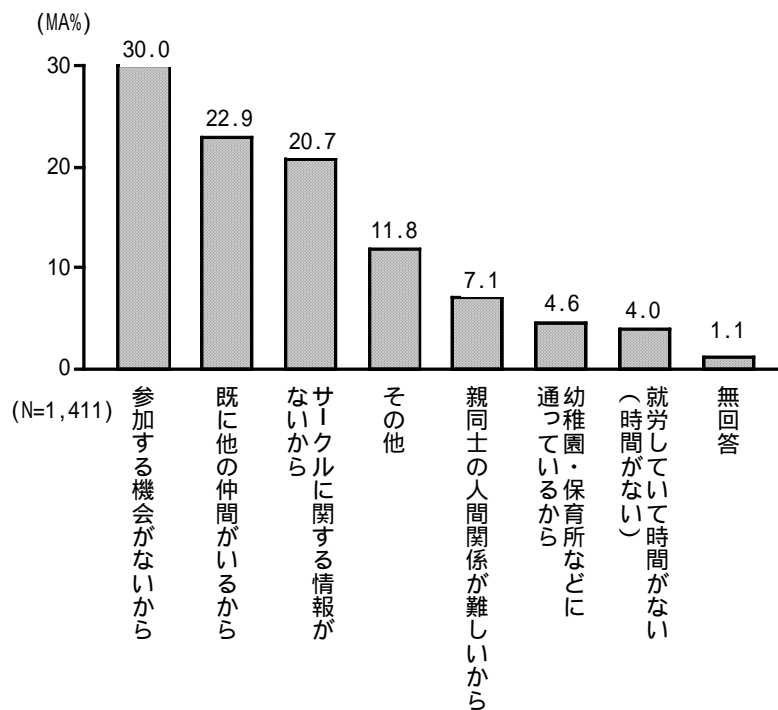


共働きの状況別にみると、就学前児童、小学生ともに「近くに気軽に頼める人がいる」が、共働きの世帯、共働きでない世帯とも最も高くなっている。その一方で、「特に頼める人はいない」は就学前児童では共働きの世帯で16.6%、共働きでない世帯で14.3%、小学生では共働きの世帯で10.8%、共働きでない世帯で14.0%みられた。

【図 子育てサークルへの参加状況（就学前児童）】



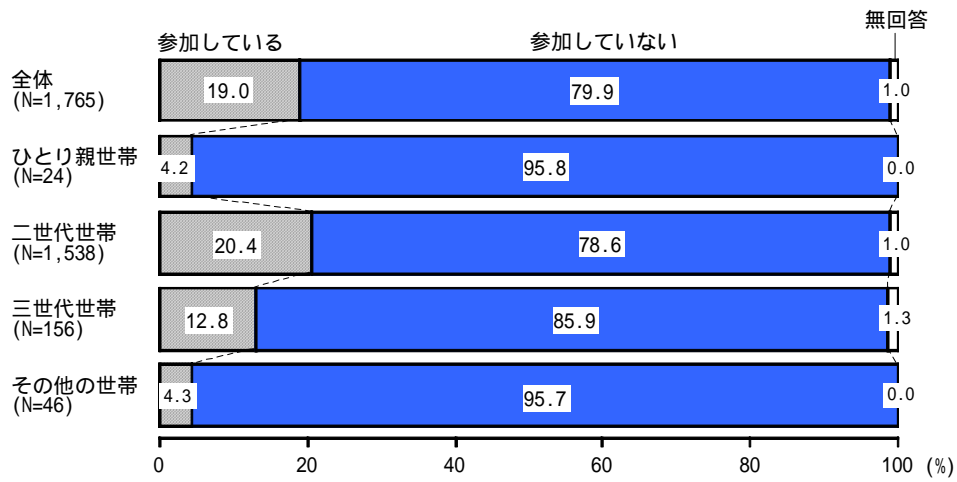
【図 子育てサークルに参加していない理由（就学前児童）】



子育てサークルへの参加状況を見ると、「参加している」は19.0%となっている。

子育てサークルに参加していない理由についてみると、「参加する機会がないから」が30.0%と最も多く、次いで「既に他の仲間がいるから」(22.9%)、「サークルに関する情報がないから」(20.7%)の順となっている。

【図 世帯構成別 子育てサークルへの参加状況（就学前児童）】

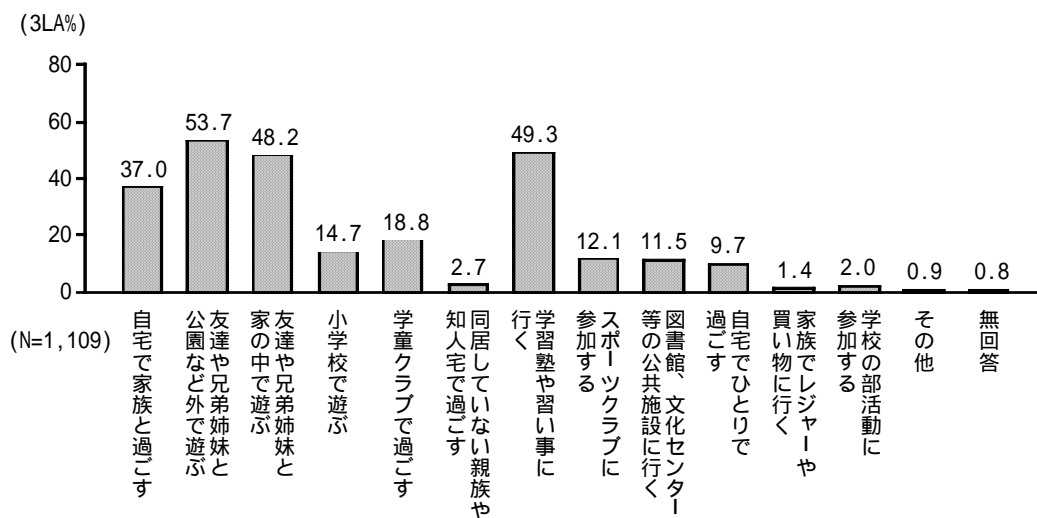


世帯構成別にみると、「参加している」のは二世帯世帯が 20.4%で他の世帯に比べ高くなっているが、ひとり親世帯になると 4.2%と 5%に満たない。

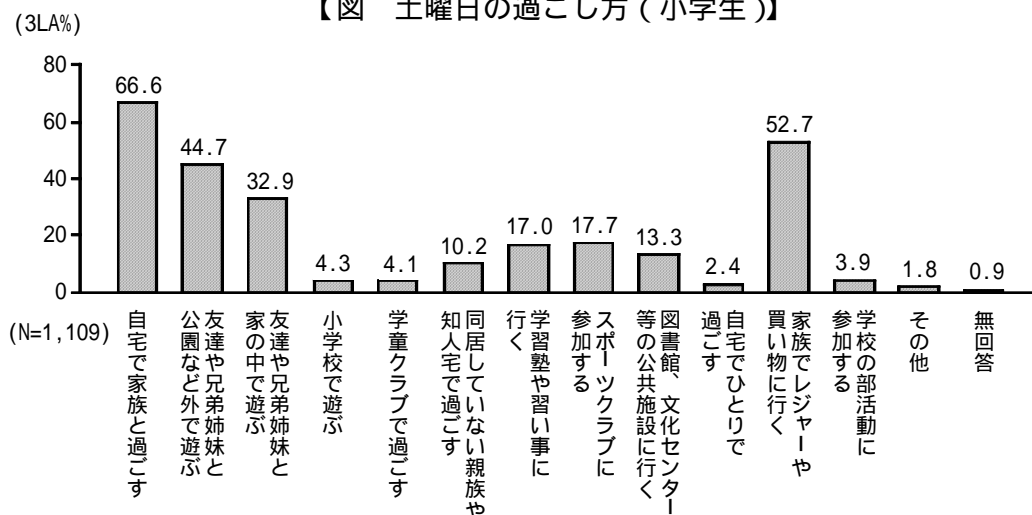
3. 子どもの生活の状況

(1) 子どもの日中の過ごし方と居場所 (小学生 問12)

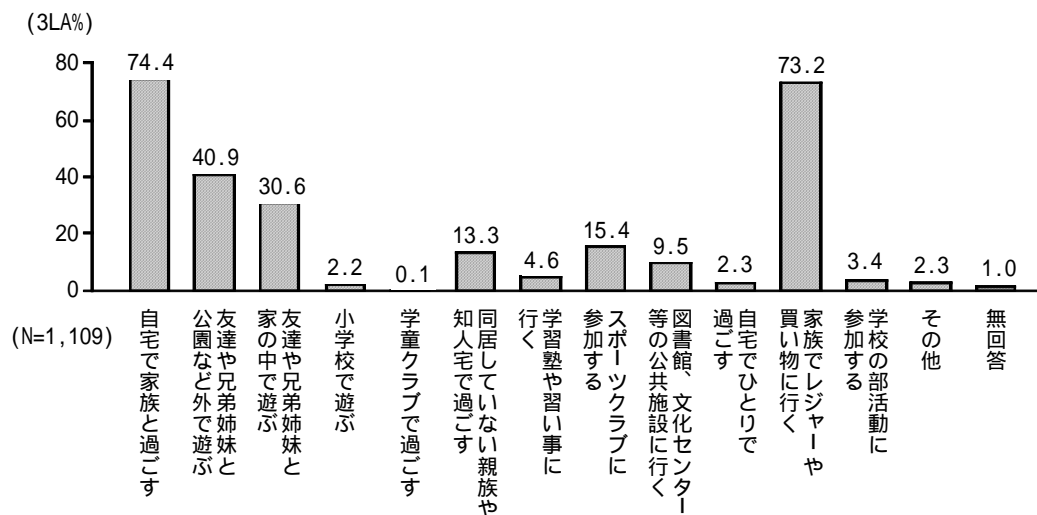
【図 平日の放課後の過ごし方 (小学生)】



【図 土曜日の過ごし方 (小学生)】



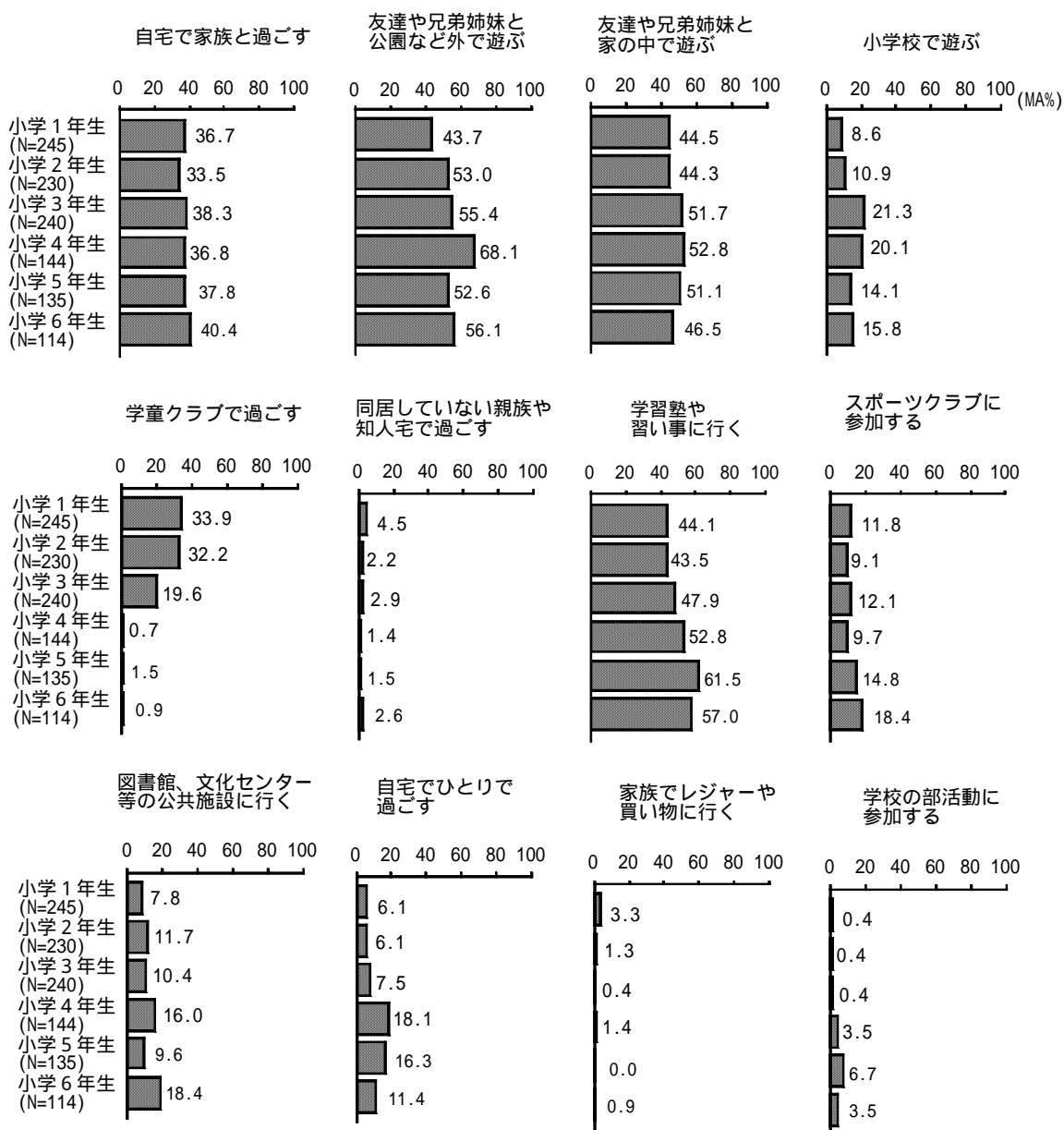
【図 日曜日・祝日の過ごし方 (小学生)】



日頃の過ごし方を曜日別にみると、平日の放課後は「友達や兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」が53.7%と最も多く、次いで「学習塾や習い事に行く」(49.3%)、「友達や兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」(48.2%)などとなっている。

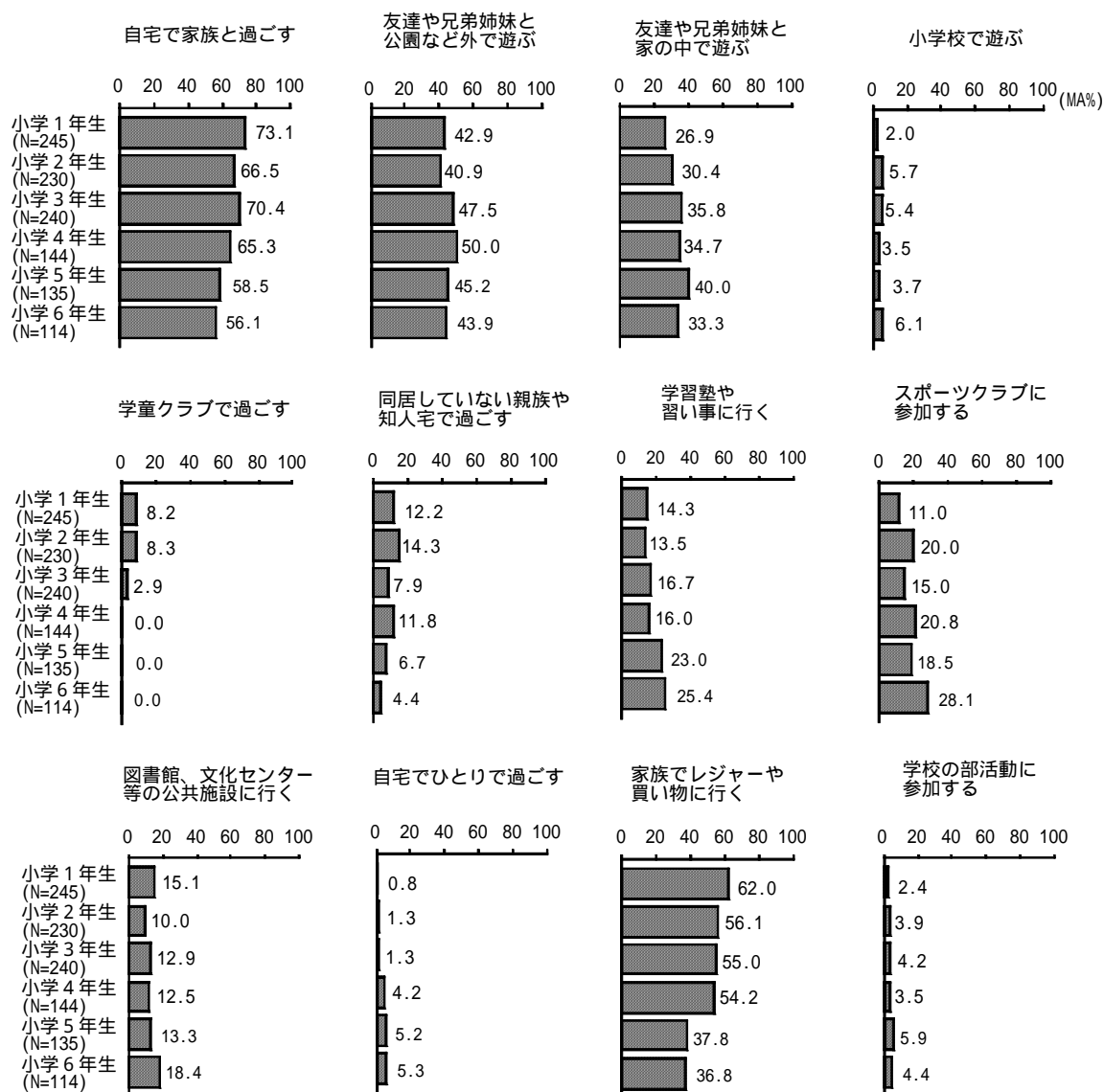
土曜日と日曜日・祝日は、「自宅で家族と過ごす」が最も多く、次いで「家族でレジャーや買い物に行く」「友達や兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」の順であるが、いずれも日曜日・祝日の方の割合が高くなっている。

【図 学年別 平日の過ごし方(小学生)】



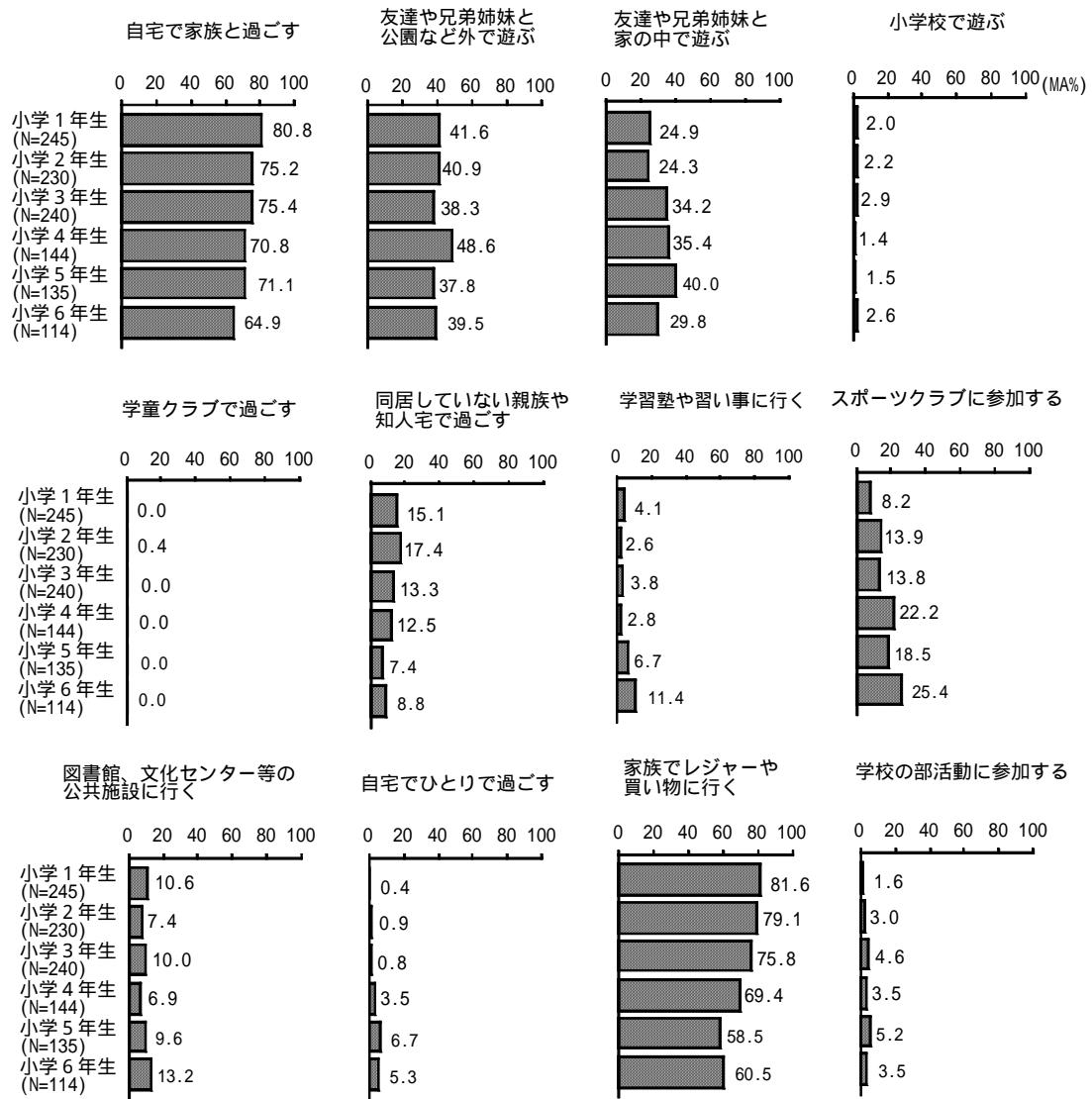
学年別にみると、平日の放課後は、小学1年生(44.5%)では「友達や兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」、小学2年生(53.0%)、小学3年生(55.4%)、小学4年生(68.1%)では「友達や兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」、小学5年生(61.5%)、小学6年生(57.0%)では「学習塾や習い事に行く」が最も高くなっている。

【図 学年別 土曜日の過ごし方（小学生）】



土曜日は、いずれの学年においても「自宅家族と過ごす」が最も高いが、小学1年生から小学4年生では「家族でレジャーや買い物に行く」が50～60%台を占める。

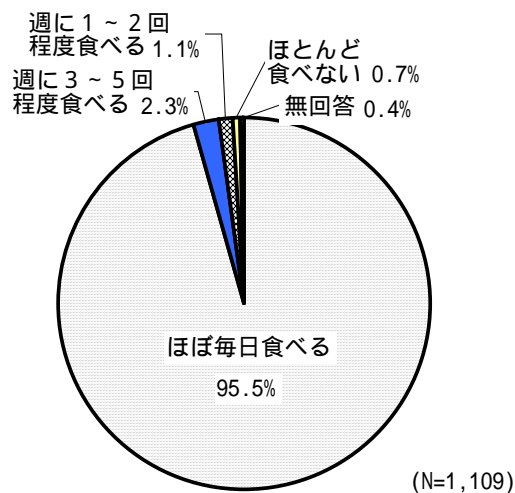
【図 学年別 日曜日・祝日の過ごし方（小学生）】



日曜日・祝日は、土曜日と同様、「自宅家族と過ごす」、「家族でレジャーや買い物に行く」が高くなっている。

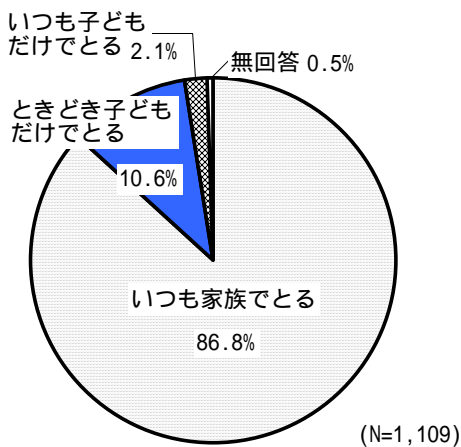
(2) 食生活等の状況 (小学生 問 13)

【図 朝食の状況 (小学生)】



朝食の状況についてたずねたところ、「ほぼ毎日食べる」が95.5%となっている。

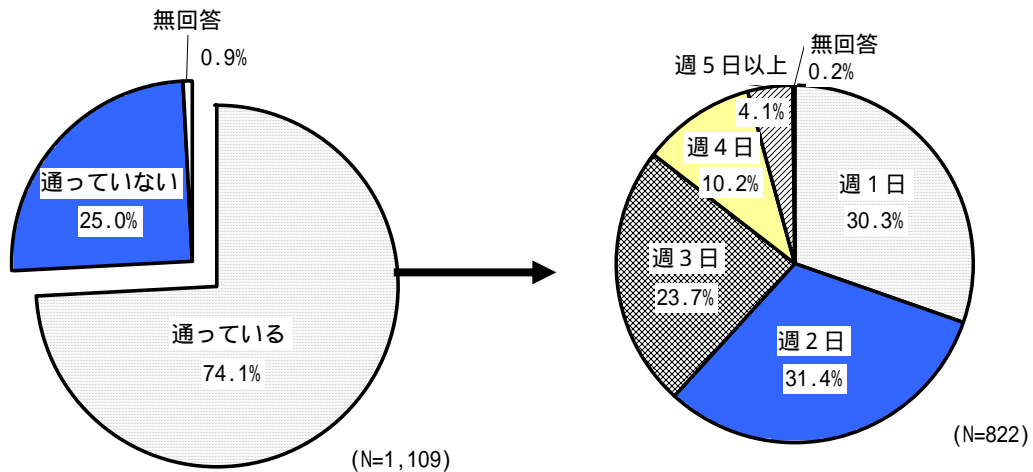
【図 夕食の状況 (小学生)】



夕食を家族の誰とともにするかについては、「いつも家族でとる」が86.8%を占め、「子どもだけでとる」は、「ときどき」と「いつも」をあわせて12.7%みられた。

【図 塾や習い事の状況（小学生）】

【図 塾や習い事に通っている日数（小学生）】

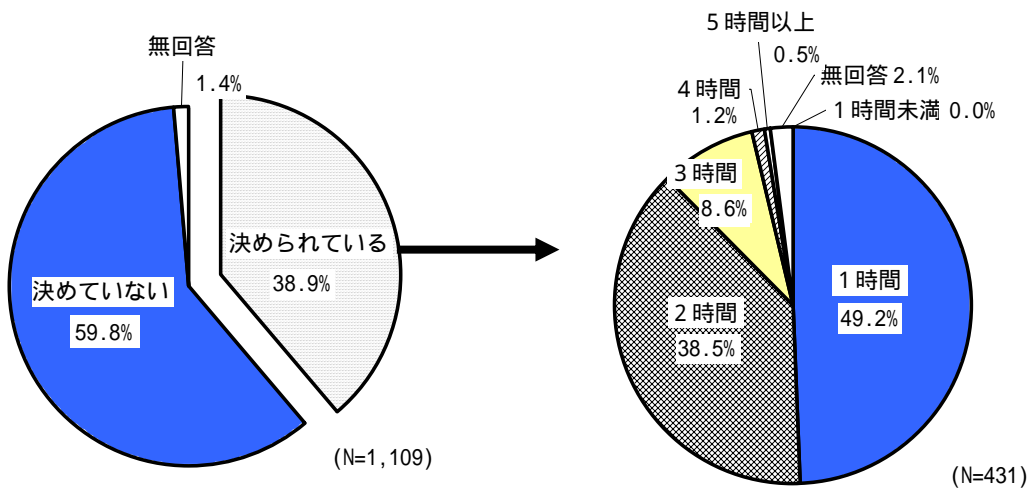


小学生の74.1%が塾や習い事に「通っている」と回答している。

塾や習い事の日数は、「週2日」が31.4%と最も多く、次いで「週1日」(30.3%)、「週3日」(23.7%)となっている一方、「週4日」(10.2%)、「週5日」(4.1%)という回答もあわせて約14%あった。

【図 テレビやゲームの利用時間制限（小学生）】

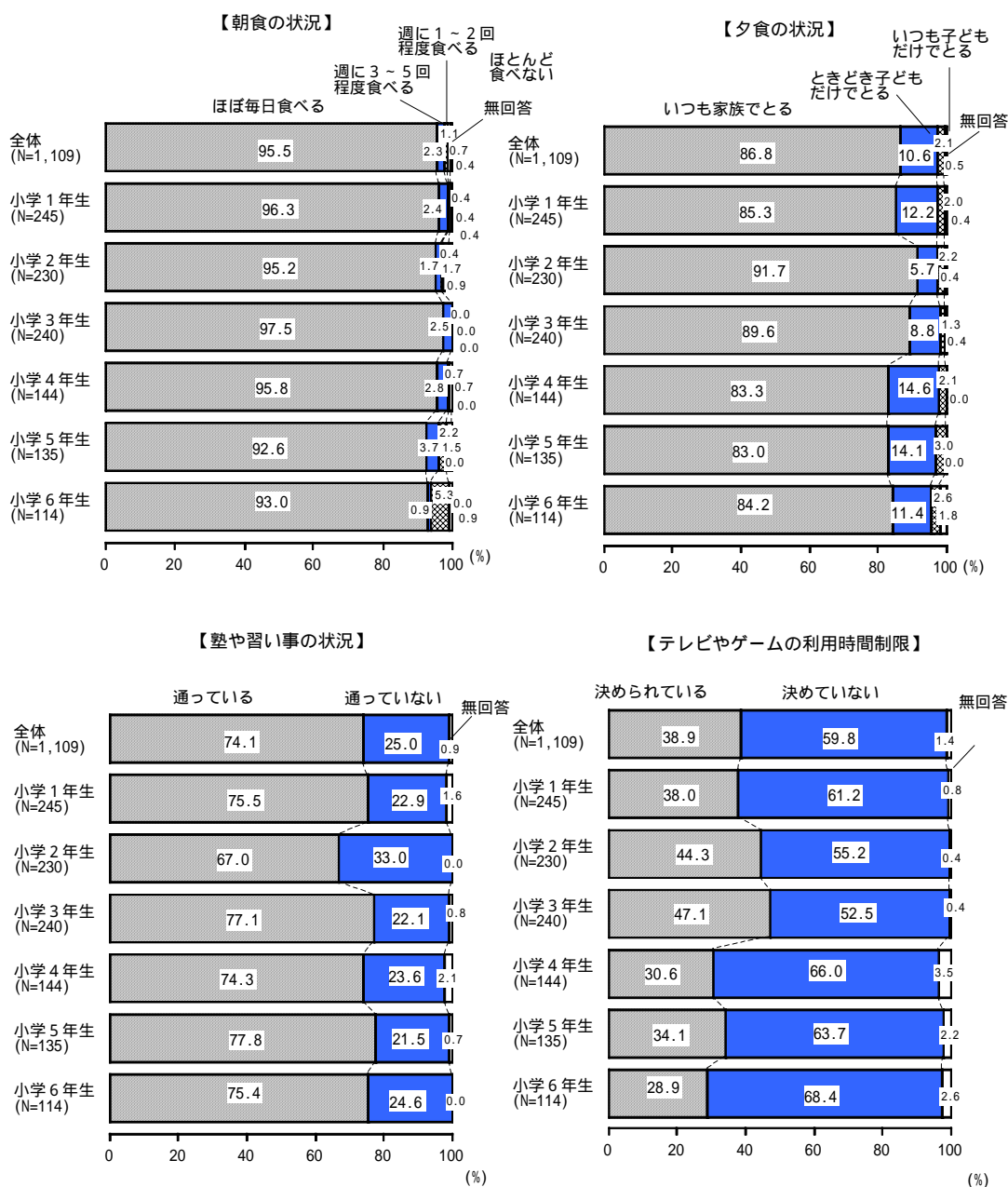
【図 テレビやゲームの利用時間（1日あたり）（小学生）】



テレビ等をみたり、テレビゲームをする時間が決められているのは38.9%で、「決めていない」が59.8%を占めている。

一日に何時間テレビをみたり、テレビゲームをするかについては、「1時間」が49.2%と最も多く、次いで「2時間」38.5%となっている。

【図 学年別 食生活等の状況（小学生）】

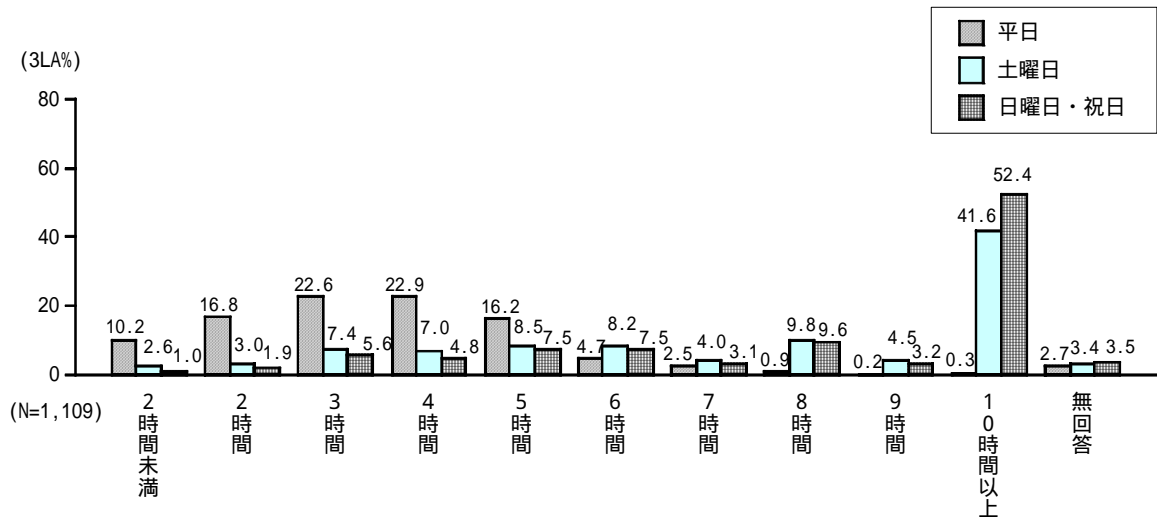


学年別にみると、いずれの学年においても朝食は「ほぼ毎日食べる」が90%台を占め、高くなっている。夕食については「いつも家族でとる」がいずれの学年においても高く、特に小学2年生では91.7%を占める。

塾や習い事に通っているのは、いずれの学年においても高く60%~70%台を占めている。

また、テレビ等をみたり、テレビゲームをする時間が「決められている」のは、小学3年生(47.1%)、小学2年生(44.3%)で他の学年に比べ高くなっている。

【図 家族と団らんで過ごす時間（小学生）】

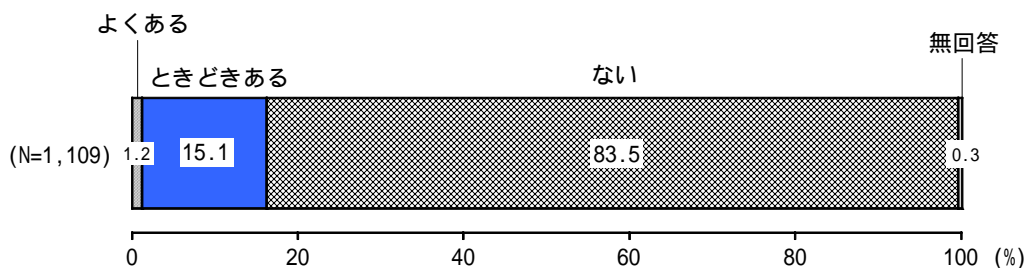


あて名の子どもが家族と団らんで過ごす時間を曜日別にみると、平日は「4時間」(22.9%)と「3時間」(22.6%)が多く、土曜日と日曜日・祝日では「10時間以上」が40%~50%台を占めている。

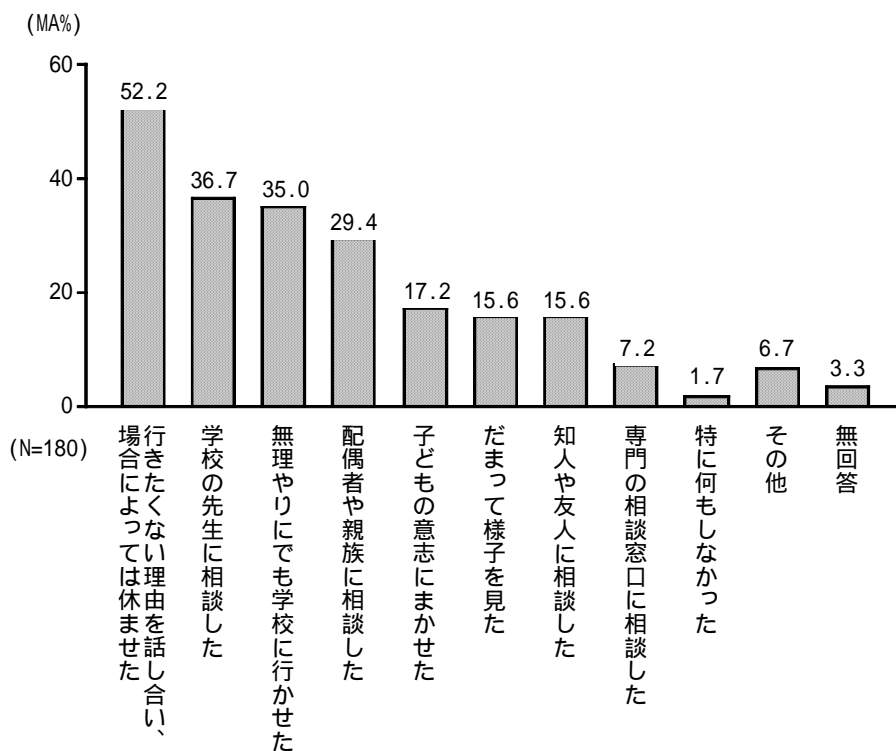
学年別にみると、家族団らんで過ごす時間は、いずれの学年においても平日では3~4時間、土曜日、日曜日・祝日では10時間以上が高くなっている。

(3) 不登校やいじめについて (小学生 問14)

【図 子どもが学校に行きたがらないこと (小学生)】



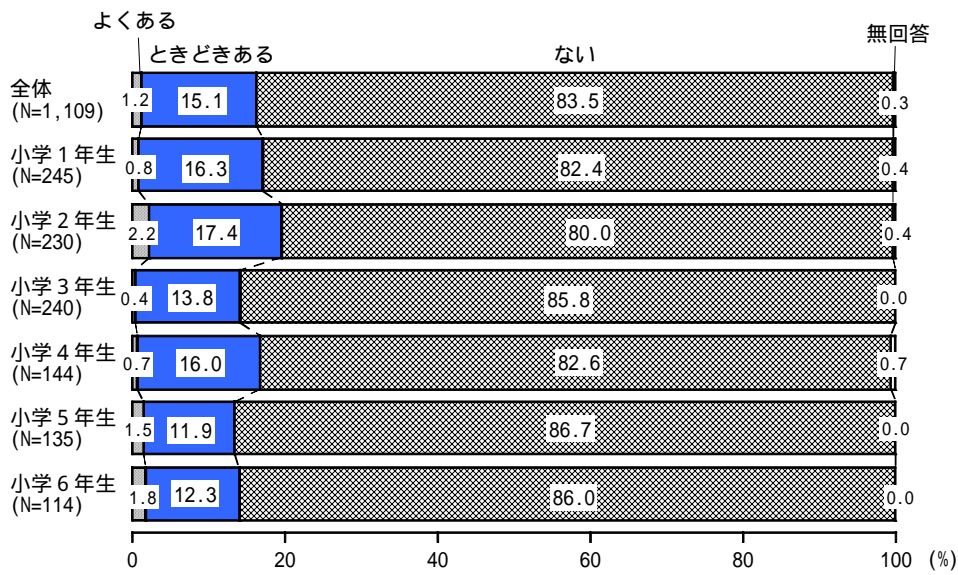
【図 子どもが学校に行きたがらない時の対処方法 (小学生)】



子どもが小学校に行きたがらないことについては、「ない」が 83.5%と圧倒的に多いものの、「ときどきある」が 15.1%、「よくある」は 1.2%となっている。

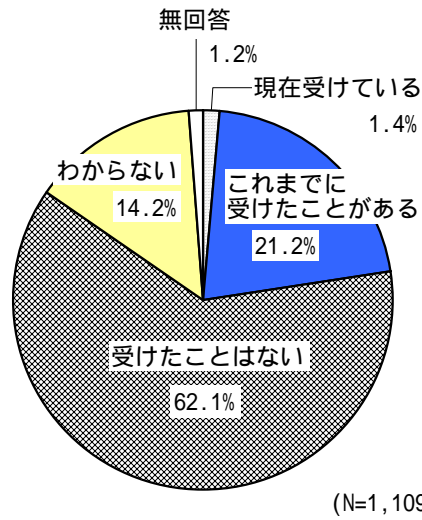
子どもが学校に行きたがらなかった時の対処方法は、「行きたくない理由を話し合い、場合によっては休ませた」が 52.2%と最も多く、次いで「学校の先生に相談した」(36.7%)、「無理やりにもでも学校に行かせた」(35.0%)の順となっている。

【図 学年別 子どもが学校に行きたがらないこと（小学生）】

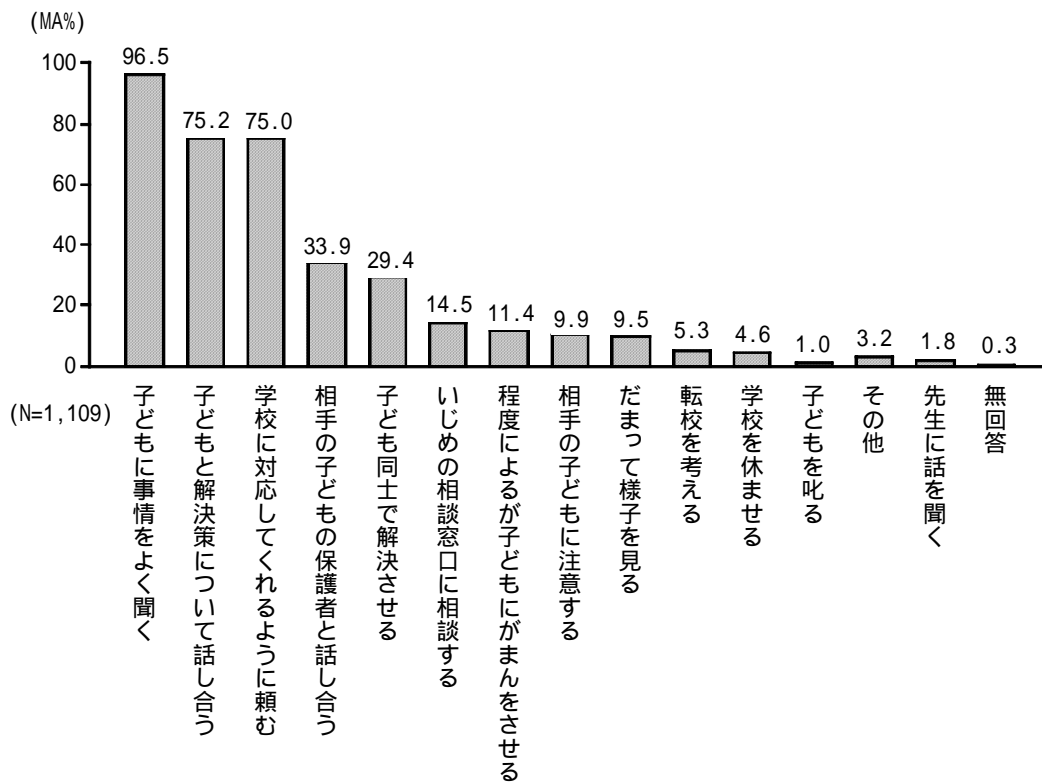


学年別にみると、子どもが学校に行きたがらないことが「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計）のは小学2年生（19.6％）で約20％みられた。

【図 学校での「いじめ」の経験（小学生）】



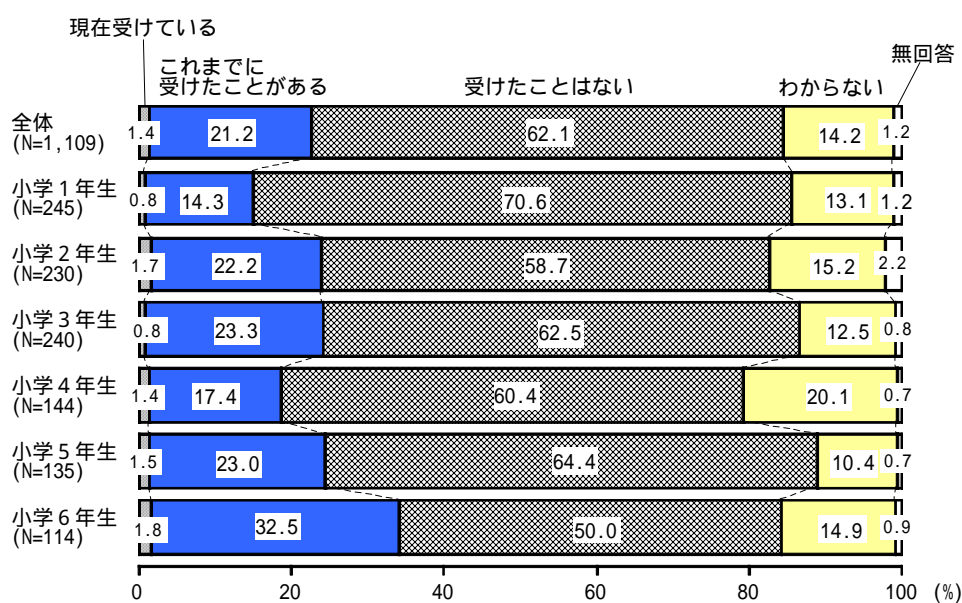
【図 「いじめ」を受けた際の対処方法（小学生）】



子どもが学校で「いじめ」を受けたことについては、「これまでに受けたことがある」が21.2%、「現在受けている」が1.4%となっている。また、「わからない」と答えた人も14.2%みられた。

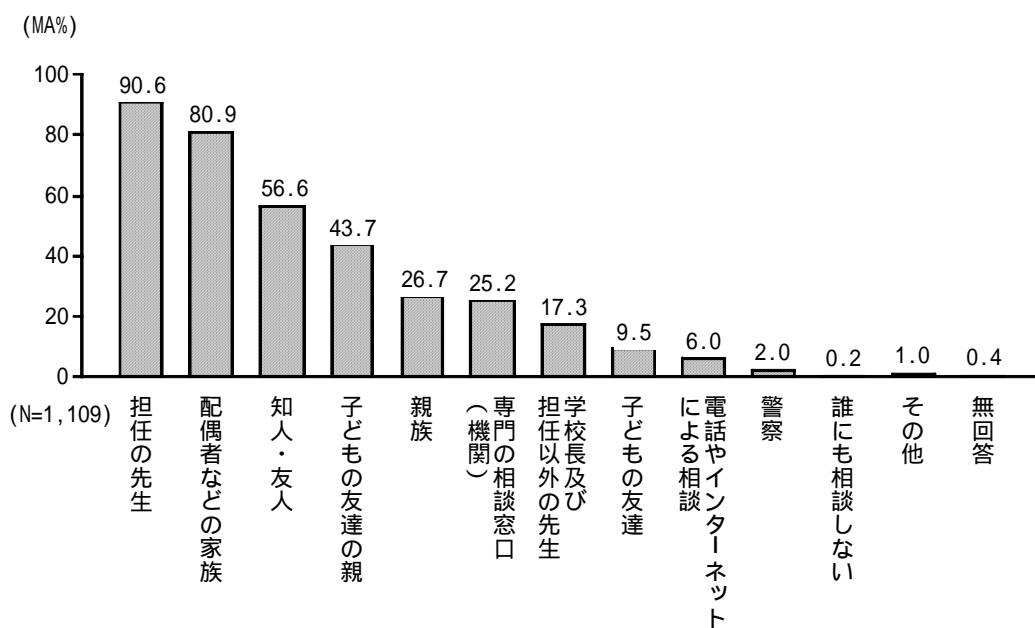
子どもがいじめを受けた時の対応は、「子どもに事情をよく聞く」が96.5%と最も多く、次いで「子どもと解決策について話し合う」(75.2%)、「学校に対応してくれるように頼む」(75.0%)となっている。

【図 学年別 学校での「いじめ」の経験（小学生）】



学年別にみると、いじめを受けたことがある（「現在受けている」「これまでに受けたことがある」の合計）のは小学6年生が34.3%で他の学年に比べ高く、3人に1人がいじめを受けた経験がある。

【図 「いじめ」を受けた時の相談相手・機関（小学生）】



子どもがいじめを受けた時の相談相手・機関は、「担任の先生」が 90.6%と最も多く、次いで「配偶者などの家族」(80.9%)、「知人・友人」(56.6%)の順となっている。